



カエルは、水の中で目を開いていて、平気なの

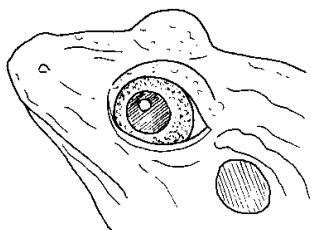
カエルは、水中めがねをもっている

水にういているときのカエルの目をよく見ると、下のまぶたの内側に、すき通った膜(しゅん膜という)が、目の下から半分ぐらいを、おおっているのに気がつくはずです。地上で、えさの虫などをねらっているときは、目ははっきり開いていて、しゅん膜も見られません。水にもぐるときは、このすき通った膜が、水中めがねのように目全体をおおい、水中のものはよく見えるけれど、ごみなどからは目を守っています。カエルが、水中で目を開いているように見えるのは、じつは、こんなしかけがあったのです。

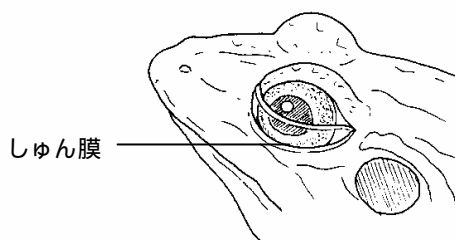
目をとじるときは、上まぶたが下りる

カエルは、たいいてい、大きなとび出た目をもっています。カエルが目をとじるときは、このとび出ている目が頭の中にひっこみ、肉のあつい上まぶたが、すっぽり目にふたをしてしまいます。

カエルの目は、よく発達した目で、小さな虫などの動きをしゅん間的にとらえて、パッととびつきます。夜活動することが多く、うす暗いときには、光をたくさん取り入れるため、目の黒い部分が大きくなっています。(監修・今泉 忠明)



目をあけたカエル



水にういているとき

